

26. 海馬領域における亜鉛の電子顕微鏡的組織化学による検索の試み

京都府立医科大学第一解剖学教室
大塚 長康・○井端泰彦

ができるようになるが) ACPase はあたかも数コ以下の小体を大きく包裹するかのように、周囲細胞質とは極めて明確に境された、謂わば「活性域」として出現する。小体に直接、あるいはその辺縁に接して現われる ACPase 活性は比較的低い。

このような所見と注入後 1 週間乃至 2 週間経過した動物における所見と併せ考察し、Ceroid 様色素生成過程を追求する。

演者はこれまで 5 回にわたり当総会において海馬領域に亜鉛を含んだ物質が存在し、これが光顕的に苔状線維終末部に一致してみとめられることを報告した。しかしこれら亜鉛が微細構造上、神経終末のどこに局在しているのかという点については不明である。そこで今回は亜鉛の局在部位を超微細構造の上から決定しようと試みた。これまで岡本ら、Pihl らによって脾島 B 細胞の亜鉛を電顕的に検索する試みが行なわれている。しかしこれらの方法をそのまま海馬領域に適用しても好結果をうることはできなかつた。そこで固定液として、グルタルアルデヒド— H_2S 飽和溶液、ホルマリン— H_2S 飽和溶液、50%アルコール—飽和溶液などを使用し、証明法としては光顕的に用いる Timm 法を適用した。反応液の濃度、反応時間を種々検討し、できるだけ組織像を破壊せず、しかも反応像が明確にとらえられる方法を考察した。

27. ラフォラ小体の電顕的組織化学

岐阜大学医学部精神神経医学教室
難波 益之

はじめに徐々に発現する異常脳波と性格変化につづき、てんかん発作、ミオクロヌス、小脳症状が現われ、最後に急激な悪化ののち死亡するラフォラ病の中樞神経組織に、ラフォラ小体がある。

通常の固定法, Epon 812 包埋, クエン酸鉛染色を施したときのラフォラ小体は、約幅 $100\text{\AA}$ のぎこちなく技法かれした糸状構造よりなる。組織片をまず冷弱 Bouin 液で固定し、アルコールと水を通して OsO_4 で再固定した標本では、各々の糸状構造の中にはつきりとミエリン様構造が現われる。もし、冷弱 Bouin 液固定組織を Baker のピリジン抽出法で処理しておくと、ミエリン構造は失なわれる。

28. 前立腺上皮細胞の電顕組織化学的研究 (I)

関西医科大学第 2 病理学教室
○今 清・森井 外吉

生後 1 年以上のラット 12 匹 (対照 6, 去勢 1, 2, 3 週間後夫々 2) と生後 3 ケ月のラット 8 匹 (対照 2, 去勢 3 週間後 3, Testosterone propionate 1mg 3 週